

【所沢市】ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (%)

国においてはGIGAスクール構想の更なる進展に向けて、端末の利活用の学校間格差が課題となっており、その大きな要因の一つが、ネットワークの不具合であると考えられます。これを背景として、文部科学省では、固定回線について学校規模ごとに1校当たりの帯域の目安（以下「当面の推奨帯域」という）を設定しています。

令和6年1月から3月にかけて通信回線事業者が実施した網内集約点における測定調査では、ユーザトラフィックにおいて定常に混雑している状態は見られませんでした。このためユーザトラフィック下り（最大値）400Mbps以上の学校4校(8.51%)を調査対象としました。また、令和5年度に行った各学校におけるユーザ体感調査結果によると、47校中7校(14.89%)が「週に数回程度不具合がある」と回答しており、教育センターを含めた48拠点中11校(22.91%)についてアセスメントを実施しました（校内ネットワークの入口にあるルータの帯域が「当面の推奨帯域」を満たしているか測定）。

その結果、全拠点において「当面の推奨帯域」を満たしていると考えられます。

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

（1）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和6年度中にネットワークアセスメントを実施し課題を特定し、今後の対応策を検討します。

（2）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

ネットワークアセスメントの結果や今後のクラウドの利活用を踏まえ、令和6年に順次改善策の検討を開始し、令和7年度から「当面の推奨帯域」を考慮して、現行のベストエフォート（1Gbps）回線における改善策を実施します。

（3）ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合の当該課題の解決の方法と実施スケジュール

将来的なクラウドの利活用を踏まえて、令和7年度から令和9年度にかけて、既存の教育ネットワーク回線（1Gbps専用線）と学習系ネットワーク回線（1Gbpsベストエフォート）を教育ネットワーク回線へ段階的に統合し、教育ネットワーク回線の帯域を拡張します（学校規模別に2,3,5Gbps）。また令和9年度のネットワーク機器のリースアップに伴い教育ネットワークシステム更改し、基幹ネットワーク機器をアップグレードし、（1Gbps→10Gbps対応機器）。今後のフルクラウド・ゼロトラストに向けた検討を行っていきます。